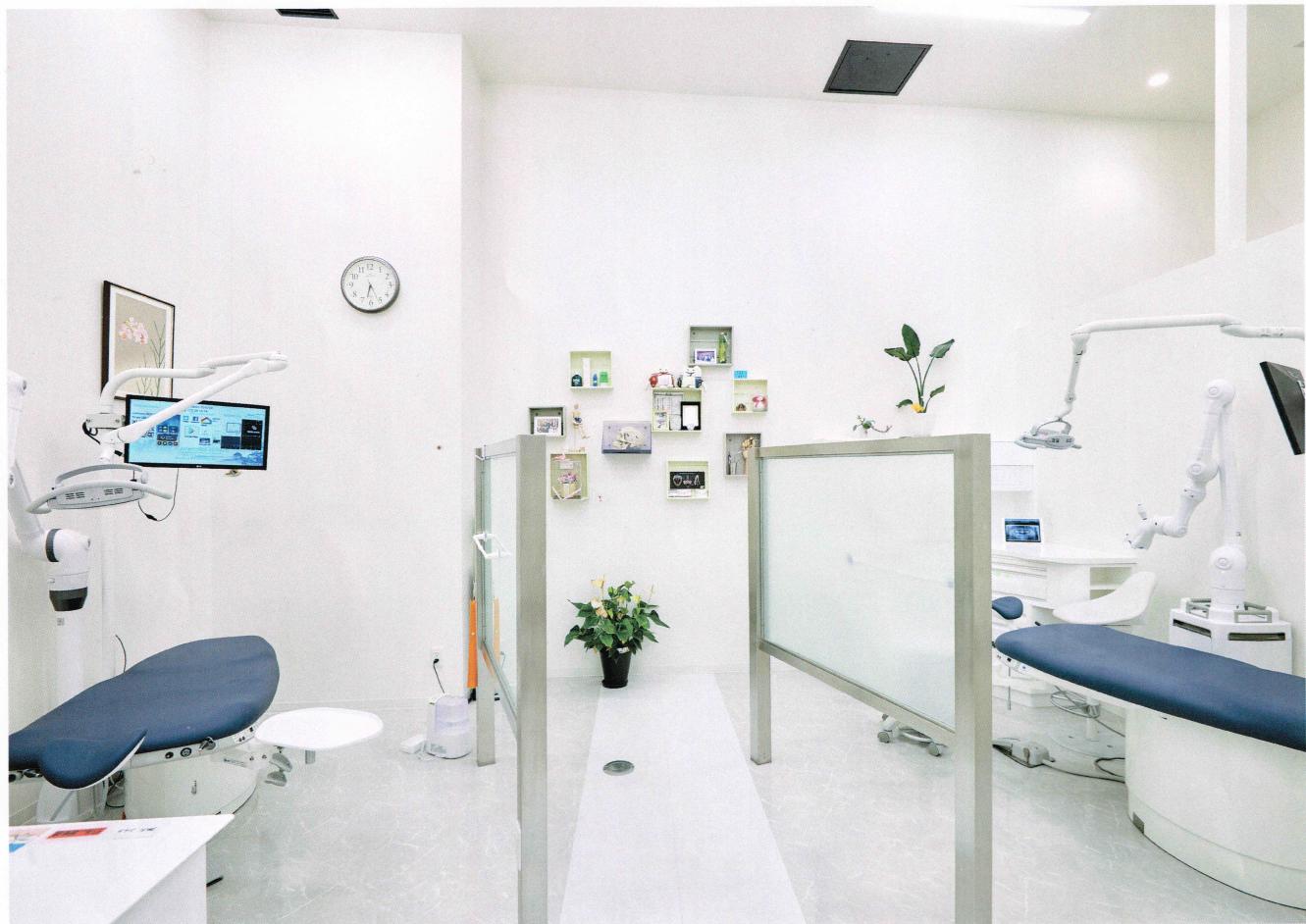


中村歯科診療所
大阪市中央区高麗橋1-7-3 北浜プラザ2F



「“一人ひとりに向かう”原点を忘れない」。そんな思いが伝わるクリニック。

大阪の中心地で約50年の歴史をもつ中村歯科診療所が、エリア再開発にともない最寄駅と直結する複合商業施設のタワーレジデンスに移転開業。

4メートルの高天井の開放感ある空間に、爽やかなホワイトとネイビーを組み合わせ、清潔感を第一にしたレイアウトを実現。

中村功院長の唯一のこだわりは、Dr.ビーチに師事し、pd診療の第一線で活躍されてきたお父様の写真や、開院時から使用してきた看板などのディスプレイコーナーを設けるなど「原点を忘れない」こと。

予防をサポートすることで“治療ゼロ”的な状態を目指す理念を長年追求し

てきた中村院長のさまざまな思いが伝わってくる。

そして現在「pd普及の会」理事として、若い歯科医師の育成にも取り組む。「新型コロナウイルス収束後は、この医院を研修の場として、若い人们も関心を持ってもらえる活動をしていければと考えています」。

Style Concept

移転前と同じく、あえて30坪程度の小規模な物件にこだわり、ユニットを3台に限定。「一診療で一人の患者さん

に向かう」という診療スタイルを貫く。「ただ、pd診療のエリアキャビネットは人の動くスペースも規格されているので、どう配置するかで悩みました」と語る院長。

その試行錯誤の甲斐があり、念願だった滅菌・消毒スペースとスタッフルームを広くし、患者さんには心地よく、スタッフには「動きやすい」と喜ばれる医院が完成した。



設計：株式会社シー・ピー・オー設計



高級飲食店などが並ぶ商業フロアの2Fに立地。駅直結でアクセスは以前よりさらに便利になった。



高い収納棚を備えた受付。旧医院はオープンスペースだったが、スタッフの意見を取り入れ、待合室と診療室を扉で仕切り、空間にメリハリをつけた。



pd診療では治療後までうがいを必要としないため、待合室にドレッシングコーナーを設置した。



メインテナスエリアには「スペースラインHPO ダッシュゼロ」を2台新設。白とグレーに色分けした床のタイルで導線を分け、患者さんを誘導する。



診察エリアには長年愛用する「スペースライン フィール21」の一部を移設リメイク。撮影したCT画像データを院内Wi-fiで送り、すぐにiPadで確認できる新たな試みも始めた。



「会話の際は患者さんと目線を合わせる」というpd診療のコンセプトに基づいたカウンセリングコーナー。ディスプレイされた旧医院の看板などは患者さんとの会話のきっかけづくりに一役買っている。